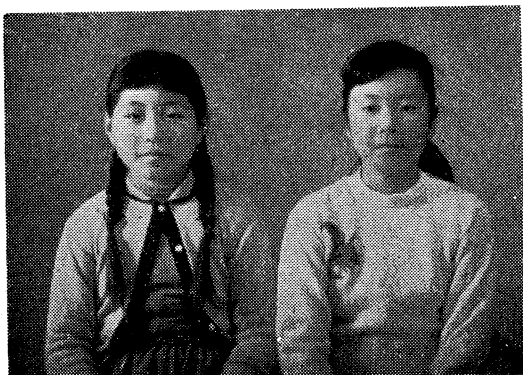


第9回茨城県統計図表展に入賞して



さきに県が募集しました第9回茨城県統計図表展において、第1部小学校の部に「せいくらべ」を出品され、見事第1位に入選された土浦市立第二小学校5年の木村美佐子さん、路川恭子さんから、入選の感想文をいただきました。

(写真は路川恭子さん・木村美佐子さん)

「第9回茨城県統計図表展に入賞して」

路川 恭子

ずつと前にかいてだした、統計グラフの「せいくらべ」が県の展覧会で1位に入賞した事を先生から聞いた時、私達は考えてもいなかったのびつくりしてしまいました。あれは、私と木村さんと2人でかいたものです。

初めはどんなふうにかいたらよいか、わからないので、2人で考えたり先生に聞いたりして、いろいろと工夫してみました。

そして、全国の生徒と本県の生徒のせいの高さを比較してグラフに表わして見ることにしました。先生から、「どうせかくなら上手にかくのだ。」といわれた。

私達は一生けんめいかいてみたが、なれないので、なかなかうまくかけなかつた。

あんな、大きな紙にかくのは初めてなので、指さきがふるえてこまつてしまつた。

それから人の形がうまくかけなかつたので、紙を人の形にきりぬいて、その中に、色をぬるようにしたら、みんな同じように、うまくかけた。色はどんな色をつかつたら、一番よく見えるか、いろいろ苦心してみたが、なかなか思うようにならなかつた。

1日目は、家におそくなると言つて来なかつたので、お母さんが心配して途中まで、むかえに来てくれた。

その次の日から毎日、2時間ぐらいつつかかつて、出来あがるまでに、1週間以上かかつた。出来あがつた時は、とてもうれしかつた。

「入選のよろこび」

木村 美佐子

しばらく前に、先生にいわれて、「せいくらべ」というグラフを、路川さんと、いつしよに、かいたことがありました。

先日、先生から、その表が県の展示会に出品されて、1位になつたと聞かされておどろきました。

今思うと、しばらく前に、ほうかごや、勉強時間のあい間を見て、すこしずつ書きながら、1週間くらいかかつてかいたのでした。あの時は、この表が1位になろうなどは、ゆめにも思つてはいませんでした。あのころのことが今になつて、いろいろ思いだされます。

はじめ、先生のせつめいをいろいろ聞いてから、路川さんといつしよに、相談しながらかきました。字形や、色などいろいろくしんしましたが、やつと出来あがつて出しました。それがこんど入選して、そのひびょうなどを聞かされました。「たいへんよく出来たけれど、ただ色がもうすこし明るい、なおよかつた。」といわれましました。

これで第二小学校では、3年つづいて1位を取りました。これもみんな先生方のおかげだと思います。私も入選とは、こんなにうれしいものかと思ひました。

統計

今日の問題

～〇～

H. Tando

社長室の隣にある統計課

ことは旧聞に属するが、昨年11月初旬東京の小野田セメント株式会社を見学した時に、その統計課長がこういつたのを憶えている。

「近くこのI. B. Mの隣に社長室を置くつもりです。」
防音装置を施した社長室ならともかく、数多くの電子計算機構の一連の機械類の騒音に包まれた社長室を想像して見ると、今までの社長室の観念と——もつとも私は社長室には縁がないので、この観念はいまいであるが——つまり今までの経営方式と、今日および将来のそれが著しく違つて来たことに気づくのである。

すなわち、小野セメントでは毎日約1,000種類の資料が各工場から東京の統計課あてに送られてくる。勿論送るのも機械であれば、受けるのも機械だ。そして色々に分類され自動タイプされた資料を経営陣がにらんで、次の打つべき手に靈感を働かせるといった仕組である。ここには会計課がないし、いわゆる事務屋が居ない。代りは全部機械がする。こうしたI. B. Mを中心とした統計機構を第2の頭脳といつているが、この機構はいつでも好きな時に、あらゆる角度から、しかも迅速に必要な現実を(事実を)提出する。

このように、今日の統計はむしろ民間企業において見事な結果を示している。それは社長室に隣接することによってその窮極に到達したといえよう。

統計課には義務だけがあつて権利がない。

統計の仕事は縁の下の力持ちだという物悲しげな観念があるが一面の真理である。なぜなら統計課には義務だけがあつて権利がないからだ。統計課には各方面が必要とする事実を(数字を)出来るだけ早く正確に提供しなければならない義務がある。しかしそれだけであつて、それをどうするという権利はない。およそ義務だけを背負つて権利のない生き方というものとは人間の本性に反するものだ。後進国や非文明国の住民の生活には、人間の権利の殆んど認められない生活が多いが、私たちの目指しているものが人間らしい生活であるとすれば、義務だけを背負つて権利のない仕事からは解放されるべきだ。

人間の進歩からいつて、統計の仕事は人間の手から機

械に明け渡すときがきている。上述の小野田セメントでは既にそれが実現されたわけだ。

財政課のない官庁

将来否今日の統計課は会計課の存在を必要としなくなつていく。官庁でいえば、財政課のない役所ということになる。今日でも役所の予算編成期には、財政課員はばう大な資料をかかえて苦闘する。よく検討すると、これらの仕事には義務の面の仕事が多い。すなわち機械のやるべき仕事を人間がやつていくことが多い。それは前述のように人間の本性に反する。

今日の進んだ民間企業にならえば、統計課は知事室、あるいは市町村長室の隣に引越すことになる。そして統計課の機械の作り出す資料が、一切の行財政の基礎となり、役人はそれらの資料を眺めて、よりよい行政のためにただ企画するといつた方向に移行しなければならないだろう。

企画と統計

企画には人間の自由の面、権利の面が強くなる。義務の面は機械が全部やる今日の方式からいえば、企画は人に残された仕事の一つである。

ただ企画するにも、その背後にある支柱によつて企画の良し悪しは決定される。そしてその支柱は、機械の作り出す統計資料である。

かつてある官庁の企画課で、新しく創設された長の机と椅子の調達を命ぜられた課員が、堅牢で能率的な鋼鉄の椅子を購入したところ、それが従来の木の椅子よりも形が小さいから貫ろくがつかないという理由で取りかえを命ぜられたことがあつたようだ。これはおかしな話であるが、案外こうした考え方は私たちの頭にしみ着いている。人間が椅子の大きさを仕事をするのでないのは、I. B. M機構の騒音に包まれた社長室の在り方が如実に物語つている。

勇 気 を

今日および明日の統計のために私たちは企画しなければならない。それが今日、統計人という人に残された仕事であるからだ。広島県の小笠原統計課長は、国が地方に対して、機械集計機のセットを年に少しづつでも配置すべきことを提案しているし、東京都では電子計算機構について2年間の研究をしている。進歩にはいつも困難がある。前述の小野田セメントの統計課長のいつた言葉は印象的であつた。

「多くのことには障害があります。そして、最後の瞬間に必要なのは勇気なのです。」

新市町村の横顔

たまづくり 玉造町



坂本町長

1. 沿革

昭和30年1月1日、旧玉造町、手賀村、立花村、玉川村、現原村の5町村の対等合併により設置されたこの町は、行方郡の北部に位置し、西と南は霞ヶ浦の北端部に面した純農村である。昨年2月建坪約8アール敷地44アール、工費1,500万円を要して新築した役場庁舎は、その近代アートギャラリーに似た様式が、幾分くろずんで、背後のはるか湖面にまで続く豊かな水田に奇妙に調和している。

町の中心をなす旧玉造町が、古来玉造村と称せられたその起源については詳かでない。伝記では古代玉造部が居住し、曲玉等を作っていたので村の名としたという。元暦以来玉造氏の居城となり、天正19年佐竹氏に滅ぼされて後は、徳川頼房の水戸に封ぜられ、水戸の所領となった。明治4年新治県の管轄になり、同8年茨城県管轄に移り、さらに同12年1月行方郡役所の管治となり、同17年7月区域改正に際し、若海村および芹沢村を併せて連合戸長役場を置いたが、同22年茨城県令により玉造町と改称し町制を施行した。

現在面積51.61平方町、世帯数2,839世帯、人口15,564人（男7,565人、女7,999人）（昭和33年11月末）で、今年1月17日の町長選挙により新町長を迎え、合併後5年目に入った新町建設に、第2段階の歩を踏み進めようとしている。

2. 産 業

当町は湖岸地帯に水田が開け、北および東が台地になって、そこに畑作が行われる。耕地面積約2,336ヘクタール、（田1,124ヘクタール、畑1,212ヘクタール）で、町の8割強が農業に従事する。農家戸数は2,199戸農家人口12,675人（男6,137人、女6,538人）、主要産物は米、大小麦、甘藷である。一時白菜の栽培が盛んで、千葉方面へ移出されたが、値段の変動がはげしく、昨年の作付は著しく減少した。

酪農はこれからの事業である。今乳牛85頭がいるが、33年度予算歳出に、乳牛15頭の導入資金として60万円の町債を追加計上した。なお昭和33年冬期調査では、この町の役牛1,030頭、馬255頭、めん羊48頭、山羊190頭、豚1,619頭、兎1,099頭、にわとり14,139羽、あひる373羽、七面鳥2羽となっている。昨年新農村建設の本指定を受け、有資事業として農業用機械、とくに動力耕うん機の購入には力を入れた。

同じく上記調査によると、農業用機械の利用農家数は電動機177戸、石油発動機1,332戸、動力耕うん機13戸、動力用脱穀機1,554戸、足踏用脱穀機387戸、動力糶すり

機1,536戸、動力用噴霧機106戸、人力用噴霧機730戸、ダスター293戸、畜力砕土機775戸、畜力カルチベーター85戸、畜力すき1,379戸である。

昭和3年2月鹿島参宮鉄道が開通し、当所には桃浦、浜、玉造、榎本の4つの駅がある外、最近玉造を中心としたバス路線が発達し、麻生、潮来、鹿島、石岡、銚田への便があるが、これは町の中部を小川町から麻生町に至る県道が走り、更に役場前から銚田町に通ずる県道が分岐している陸路上の便にもよることだろう。

農業以外の産業に取りたてるほどのものはない。商店数195、飲食店7、従業者数446人、年間販売額は2億9,500万円（昭和33年商業調査）事業所37、従業者数117人製造品出荷額7,900万円（昭和32年工業調査）、これらの店が、主に玉造に県道の中に宿をなしている。

3. 教育文化

この県には中学校5、小学校6（分校1）があり、中学生徒923名（男465名、女458名）小学児童2,458名（男1,284名、女1,174名）が在籍している。町村合併後学校の統廃合はしていないが、校舎の新増築は盛んで、32年度は250万円で玉造小を、70万円で現原分校をそれぞれ増築し、33年度は手賀小を250万円、浜小を350万円で新築した。厚生面では、ここは県下では数少ない国保のない町であるが、今年度2,456千円の予算で母子健康センターの設置が決定されたことは特筆すべきであろう。

観光では出沼にある西蓮寺は、関東の高野山として有名である。延暦元年最上人の創立にかり、比叡山の末寺で、この寺の仁王門は、国の重要文化財に指定されており、文部省文化財保護委員会は、去る1月5日、285万円で解体修理を行うことを決めた。また高須崎の一つ松は、樹齢800年の日本一の松で、高さ3間、根際より分枝し、周囲約1.5m、東西約20m、南北約10mで入幡太郎義家手植なりと言いつづけている。義公烈公の推賞にかかり維新の際まで保在料が下された。

4. 財 政

34年1月18日現在、町の予算は歳入、歳出共に57,863,350円で、32年度は若干赤字を出したが、まず健全で、納税組合の結成により徴税成績を向上し、新町長による新しい町作りが期待されている。

町長のモットー

本町は約八割が農漁業者であり他はその農漁業者を基盤とした中小企業の商工業者その他という職業別構成に鑑み、豊かな町作りは農漁業者の懐具合を良くすること、即ち農漁村振興を町政の重点とし、更に経済の最大障害である健康問題の解決に充分努力すると共に青少年婦人の教育を重視し町発展の礎石となる覚悟と信念を堅持し至誠町政に当り明るく伸びゆく玉造町の建設を計る。



アンケートの解答をめぐって

昨年12月、本書の内容と利用について、関係各位のアンケートを求めましたところ、現在まで次のような回答を得ましたので報告いたします。

回答枚数は11枚

アンケート用紙は約350枚配付しました。従つて回収率は約3.1%となります。

回答者の類別

市……3枚 町……1枚 村……2枚
事業所……3枚 学校……1枚 県……1枚

本書は果して利用されているか？

この疑問は、アンケートを求めた動機ですが、アンケートの、4.本書で利用している個所、についての回答を見てみますと、

毎月人口世帯異動調査結果……5
(市1、村1、学校1、事業所2)
商業、工業、農業各統計……1(学校)

となつています。

次に個々のアンケートについて見ますと、

- 茨城県鉱工業生産指数について
 - (イ) 参考になる……4(市、町、学校、事業所)
 - (ロ) 参考にならない……1(事業所)
 - (ハ) 利用価値がある……2(市、事業所)
 - (ニ) 利用したことなし……4(市1、村2、県1)
- 生産動態調査について
 - (イ) 参考になる……6(市1、町1、村1、事業所2、県1)
 - (ロ) 参考にならない……1(事業所)
 - (ハ) 利用価値がある……2(市、村)
 - (ニ) 利用したことなし……1(学校)
- 毎月勤労統計調査について
 - (イ) 参考になる……5(市1、町1、県1、事業所2)
 - (ロ) 参考にならない……0
 - (ハ) 利用価値がある……1(村)
 - (ニ) 利用したことなし……3(市、村、学校)

以上によりますと、少なくとも回答をお寄せ頂いた方々には、本書が多かれ少かれ利用されていることになり、本書への新たな希望を感じるものです。

御希望、御意見に対する回答

- 調査結果を市町村まで細部にわたり発表してほしい

(美和村佐藤氏、茨大桜井氏)

お答 出来るかぎり御希望にそいたいと思います。ただ生産動態調査、毎月勤労統計調査については、調査対象が1町村に1カ所或いは2カ所という所が多く、調査結果の市町村別公表は、統計上の秘密の保護の立場から、御希望の市町村別には出来かねると思います。

- 交通量調査を入れてほしい。(事業所)

お答 昭和33年度に県道路課で実施しました、交通量調査がありますので、本月号に掲載いたしました。

- 人口世帯異動調査結果欄に農家の世帯および人口欄を設けてほしい。(事業所)

お答 御意見はごもつともと思いますが資料や人員等の関係から当分むずかしいと思います。しかし県では毎年2月と8月に冬期および夏期農業基本調査(この調査の中に農家世帯と農家人口があります)を実施しこれを公表しておりますので、この農業基本調査と人口異動調査を併用していただきたいと思ひます。

ほかに配付部数を増してほしい、発行日を早くしてほしい、等の御希望がありました。御回報を深く感謝いたします。

小さな御要望でもぜひお寄せ下さい。

—編集室—

～寄稿募集～

- 内容 調査統計についての意見、体験、その他
- 用紙 原稿用紙を用い約2,000字程度のもの
- メ 切 毎月10日まで
- あて先 水戸市北三の丸

茨城県統計課内

茨城県統計協会

なお御投稿の方には薄謝を贈ります。